

令和5年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人幸輪会
わかば幸輪保育園

評価項目の達成・取組み状況・これから改善したいこと

評価項目	取組み状況
I 保育の計画性	社会福祉法人幸輪会の保育理念に基づいて、「目指す子どもの姿」「保育方針」を掲げ、年間目標、指導計画を作成している。「養護と教育の一体性」を重要視し、一人ひとりの子どもの発達を踏まえたうえで、年間計画、月間計画、週案を立て、生活の連続性や乳幼児期にふさわしい経験が積み重ねられるよう、また保育内容がより充実するよう努めている。
II 保育のあり方・子どもへの発達に応じた対応	子どもたちの年齢や個々の発達に応じた環境作りに力を入れ、試行錯誤しながら遊びが十分に展開できるように努めた。 新型コロナウイルスが5類に変更された後は、行事の在り方や異年齢の関わりを増やし、徐々にコロナ禍以前の取組みが、できるようにした。
III 保育者としての資質や能力、良識、適正	日々の保育の中でケース会議や、カリキュラム会議等を定期的に行い、保育の振り返りや情報共有を徹底させながら、保育士としての資質向上に努めている。また、自分の保育を振り返る機会を持ち、保育者一人一人の課題を明白にし、自ら真摯に取り組むことで、チーム全体の保育が円滑になるよう取組んでいった。
IV 保護者への対応・支援	職員全員が守秘義務を遵守し、保護者の立場を尊重している。 家庭と対等な関係を築いて互いに協力しあいながら子どもの育ちを支え、成長や喜びを共有していきたいという考えのもと、保護者支援に力を入れている。日々の保育の様子は、連絡帳(育児日記)やおたよりで伝え、保護者が不安なく通えるような園作りに取り組んできた。 また、保護者との個人面談を行い、養育不安やさまざまな思いに寄り添えるように努めた。
V 地域や社会との関わり・地域子育て支援	地域の自治協議会活動要請や、近隣の行事には積極的に協力している。 未就園児の保育が必要な方に対し、子育て支援センターと連携を取りながら一時保育事業や休日保育事業を行い、地域の子育て支援に取り組んでいる。また、社会福祉協議会主催のプロジェクトにも会員として参加し、子どもたちが花植えを、職員は清掃作業の取り組みを行なった。
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲、態度	市内のグループ研修、園外の on-line 型研修などに積極的に参加し、職員が主体的に学び合う姿勢と環境作りに努めている。 職員全体では、市内の姉妹園と合同で小グループでの研修を行い、個々の保育に関する課題を見出し、チームとしての情報共有や保育の質の向上につなげた。また園長、主任が職員との面談を行い、個々の保育に対する悩みや戸惑いが軽減し、安心して保育ができるような体制をとっている。